平成２２年６月２３日

平成２２年度　鉄道設備投資計画について

～ 淀駅付近の立体交差化の推進やバリアフリー化工事など、総額約９０億円 ～

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：上田成之助）では、公共交通機関が果たすべき使命として、安全性、快適性のさらなる追求、バリアフリー化の促進などをめざし、毎年鉄道設備への投資を続けておりますが、このたび、平成２２年度設備投資計画が決まりました。

平成２２年度は、淀駅付近の立体交差化の推進、耐震補強、列車防護無線装置新設（京阪線）、踏切・信号の更新、エレベーターの新設、トイレ改良などを実施することにしており、投資総額は約９０億円となります。

概要は下記の通りです。

記

１．踏切および運転保安工事（３６億９千５百万円）

○立体交差化工事

淀駅付近を中心に京阪本線約１．５ｋｍを高架化する事業は、昨年９月の下り線高架化に続き、平成２３年の上り線高架化をめざして取り組みます。高架化により３つの踏切道を廃止し、利便性向上、安全確保とともに、競馬開催日の混雑を解消します。

○踏切道の立体化および踏切保安施設の新設・改良

踏切障害物検知装置の更新や、踏切道の構造改良、踏切自動遮断機の更新などを行います。

○車両の改良など

運転状況記録装置や列車防護無線装置の新設などを行います。

○線路の改良

橋梁改良、防災対策、道床改良、合成まくらぎ化などを行います。

○電気設備の改良

ホーム異常通報装置の新設、信号関係機器更新、連動装置更新などを行います。

○工場・検修設備の更新

寝屋川車両工場検修設備の更新などを行います。

○その他

お客さまのお手伝いなどで係員が改札口不在時に、他駅の係員がインターフォンなどを活用して改札口で応対することを可能とする駅遠隔監視システムの導入などを行います。

２．サービス改善工事（４２億３千５百万円）

○駅施設の改良

駅の空調設備更新やホーム改良などを行います。

○バリアフリー対策

エレベーターを６駅新設、エスカレーターを１駅更新、車いす対応トイレを５駅新設します。また、列車接近表示装置の整備などを行います。

○その他

シートなどインテリアのグレードアップや車内案内表示器の搭載、車いすスペース設置などのバリアフリー対策を盛り込んだ８０００系車両のリニューアルを引き続き行います。また、当社におけるＩＣＯＣＡ定期券および、ＩＣＯＣＡ発売に向けた駅務機器の更新工事のほか、車両クーラー更新および暖房能力向上などにも取り組みます。

８０００系車両（外観）

８０００系車両（内装）

３．輸送力増強工事（１０億４千２百万円）

○電気設備の新設・改良

変電所の建て替えや、変電所機器の更新などを行います。

以　上